学習行動調査報告（2022年度）

調査概要

・学生の学習に関するレディネスや大学生活への適応を把握する調査。
・主に2021-2022年度学習行動調査の比較から、その動向を把握・検討する。
※なお、4年間の学生個々の変容は、個票により別途フィードバックする。
・実施期間：2022年8月～9月13日
・調査対象：2022年度1～4年生

基礎集計

・2022年度の回答者
・有効回答者：946名
・回答率：77.1％（在籍者1227名）

・入学年度×学科別回答者数

	学年				
学科	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
看護学科	85	102	39	43	269
理学療法学科	110	111	97	86	404
作業療法学科	37	33	44	31	145
臨床工学科	28	49	22	29	128
合計	260	295	202	189	946

・変数ごとの基本統計量（2022年度調査）

変数名	有効N	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小値	最大値
成長的マインドセット	946	3.86	4.00	0.90	0.81	1.00	6.00
自己効力感	946	3.26	3.33	0.81	0.66	1.00	6.00
内発的動機づけ	946	3.67	3.67	0.87	0.76	1.00	6.00
外発的動機づけ	946	4.02	4.00	0.92	0.85	1.00	6.00
メタ認知	936	4.00	4.00	0.74	0.54	1.14	6.00
主体的学習態度	935	4.18	4.00	0.74	0.55	1.00	6.00
エージェンシー	935	3.70	3.67	0.75	0.56	1.00	6.00
適応（友人）	931	4.55	4.67	1.00	1.00	1.00	6.00
適応（授業）	931	4.02	4.00	0.93	0.86	1.00	6.00
適応（大学）	930	3.84	4.00	1.03	1.05	1.00	6.00
適応（教員）	930	4.19	4.00	1.04	1.09	1.00	6.00
全体的に見て学生生活は充実している。	927	4.18	4.00	1.16	1.35	1.00	6.00
もし大学を選びなおせたら、またこの大学にもう一度進学したい。	929	3.60	4.00	1.25	1.57	1.00	6.00
授業外学習時間	929	4.02	3.00	4.34	18.80	0.00	36.00
授業外読書時間	929	0.94	0.00	2.54	6.44	0.00	30.00
アルバイト時間	929	9.78	10.00	7.57	57.32	0.00	60.00

・調査項目と構成概念

調査項目（学習関連）	構成概念
自分の才能は、生まれながらに決まったものではなく、伸ばすことができる。	成長的マインドセット
私の考えでは、才能というものは変えることができるものだと思う。	
学習によって、新しいことがらを学ぶだけでなく、才能も変えていくことができる。	
自分は良い成績をとれる人間だと思う。	自己効力感
授業で示される教材が難しくてもしっかりと理解できると思う。	
授業を通して自分はうまく学習をすすめられると思う。	
新しいことを学べるように、一段階上へチャレンジさせてくれるような教材を好む。	内発的動機づけ
たとえ難しくても、好奇心をくすぐるような教材を好む。	
良い成績が取れるという保証がなくても、学べることが多い課題を選ぶ。	
現在自分が授業で求めていることはいい成績を取ることだ。	外発的動機づけ
それぞれの科目でいい成績を取ることにもっとも関心がある。	
できるなら他の生徒よりも良い成績を取りたい。	
勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する。	メタ認知
勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。	
勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる。	
勉強するときは、最初に計画を立ててから始めている。	
勉強するときは、自分で決めた計画にそっておこなう。	
勉強する前に、これから何をどうやって勉強するかを考える。	
勉強する時、過去に上手くいったやり方を試みている。	
課されたレポートや課題を少しでも良いものに仕上げようと努力する。	主体的学習態度
授業には意欲的に取り組む。	
授業はただぼうっと聞いている。（反転）	
学習をするうえでの自分の目標を決めることができている。	エージェンシー
学習したことを次の活動のために振り返っている。	
学習したことを活かして、責任をもって活動したり、何かを決めたり選んだりしている。	

調査項目（適応関連）	構成概念
この大学には、よい友だちがたくさんいると思う。	適応（友人）
この大学の友達と一緒にいると楽しい。	
この大学の友達とは何でも話すことができると思う。	
この大学の授業を受けるのは楽しい。	適応（授業）
この大学の授業ではやる気がわいてくる。	
この大学では一生懸命授業を受けたいと思う。	
この大学の学生であることを誇りに思う。	適応（大学）
この大学の学生であることがうれしい。	
この大学の学生であることを、強く意識している。	
この大学の教員には安心して相談できると思う。	適応（教員）
この大学では教員と気軽に話ができると思う。	
この大学の教員に対して親しみを感じる。	

分析結果の概要

【2021年度から2022年度にかけて比較的変化があった項目】

・適応（教員）

22年度にかけ、適応（教員）の得点が有意に増加した。学年ごとに見ていくと、特に1年生が0.3ポイントほど増加しており、21年度の1年生よりも22年度の1年生の方が、大学教員と良好な関係を築けているとみられる。21年度と比較し、22年度は基礎系科目など、1年生を対象とした複数の授業が、オンライン形式から対面形式へと変更された。直接的な関係があるは不明であるが、大学への登校頻度も増加し、大学教員と接する時間が増加したことで、1年生がより大学教員と良好な関係を築けるようになったと推察される。

・主体的学習態度

適応（教員）の得点が増加した一方、主体的学習態度の得点は有意に減少していた。学年ごとに見ていくと、2年生を除く全ての学年で減少していることがわかる。特に1年生は、オンライン授業から対面授業への移行により、質問項目にあるような、学習課題が課される機会自体が、21年度と比較して減少していることや、対面授業が増えたことで、集中力が分散されたことなどが一要因として推察される。明確な原因は不明であり、減少幅もそれほど大きくないため、気にしすぎる必要はないかもしれないが、実際に学生と接している教員の実感と合わせ、今後の動向に注意していきたい。

※年度間の分析には対応のないt 検定を用いている。そのため、結果には集団の特性も反映されている可能性がある（今年の1年生は例年の1年生よりもともと主体的学習態度が低い傾向にある可能性など）。ただし、効果量こそ大きくはないものの有意な結果となっており、実際にその増加や減少の傾向は確からしいものだと考えられる。

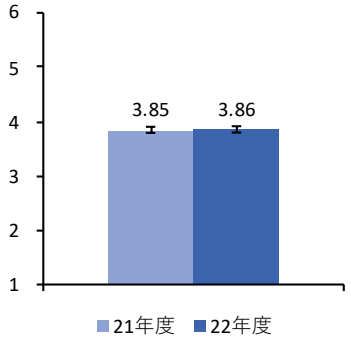
【その他、重点項目等に関して】

特に、これからの未来を生きるための主体的な学習にとって必要な資質・能力として注目されている「成長的マインドセット」「メタ認知」については、ともに変化の幅は小さく、誤差の範囲と考えられる。また、「授業外学習時間」は前年度より減少してしまったが、全国調査と比較すると0時間の割合は依然として少ない。ただし、5時間をこえて学習する学生も少なく、7割近くの学生が1-5時間の範囲となっている。なお、近年特に注目されている「エージエンシー」に関する質問項目を22年度から追加した。その平均値は3.7と、理論的な平均値3.5を上回っていたことが確認できた。今後も経年的にその動向を追っていく予定である。

分析結果（大学全体）

※特に記載のない場合は6件法：1～6点に換算、エラーバーは95％信頼区間を示す。

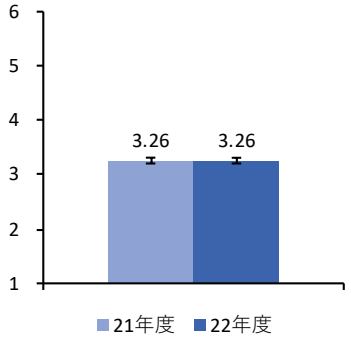
・成長的マインドセット



差の検定

水準の組	差	標準誤差	t値	df	p値	効果量d
22成長的マインドセット - 21成長的マインドセット	0.009	0.041	0.209	1859	.834	0.010

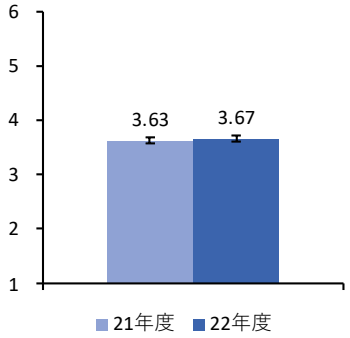
・自己効力感



差の検定

水準の組	差	標準誤差	t値	df	p値	効果量d
22自己効力感 - 21自己効力感	-0.001	0.038	-0.019	1859	.985	-0.001

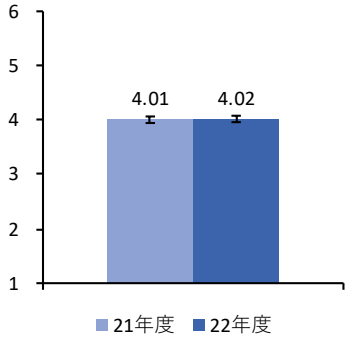
・内発的動機づけ



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22内発的動機づけ - 21内発的動機づけ	0.033	0.040	0.833	1859	.405	0.039

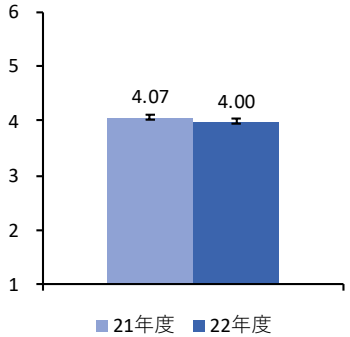
・外発的動機づけ



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22外発的動機づけ - 21外発的動機づけ	0.015	0.043	0.338	1859	.735	0.016

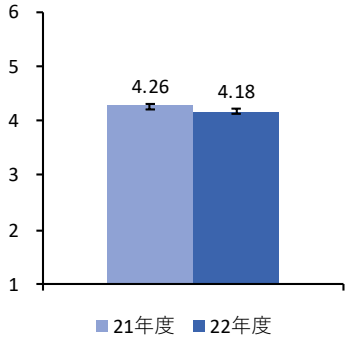
・メタ認知



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22メタ認知 - 21メタ認知	-0.072	0.033	-2.151	1859	.032	-0.100

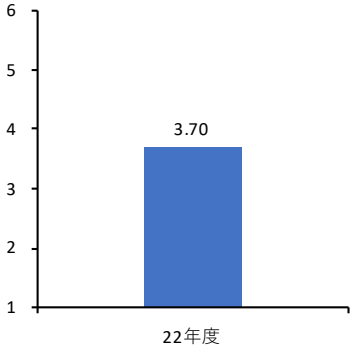
・主体的学習態度



差の検定

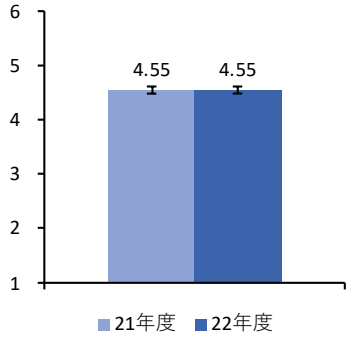
水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22主体的学習態度 - 21主体的学習態度	-0.083	0.035	-2.357	1859	.019	-0.109

・エージェンシー　※2022年度追加項目



有効N	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小値	最大値
935	3.702	3.667	0.751	0.563	1.000	6.000

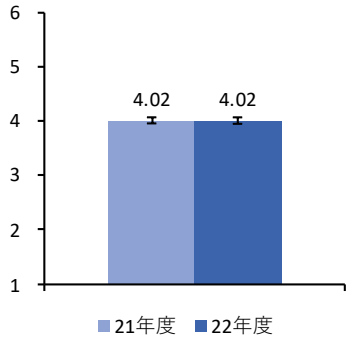
・適応（友人）



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22適応（友人） - 21適応（友人）	0.001	0.047	0.027	1849	.979	0.001

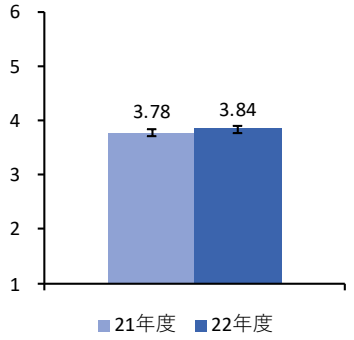
・適応（授業）



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22適応（授業） - 21適応（授業）	-0.004	0.042	-0.098	1849	.922	-0.005

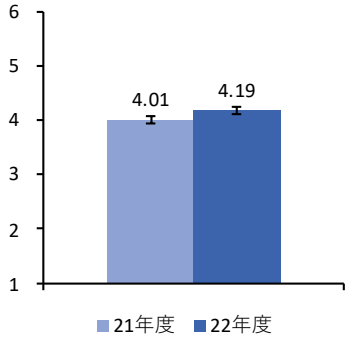
・適応（大学）



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22適応（大学） - 21適応（大学）	0.058	0.047	1.244	1849	.214	0.058

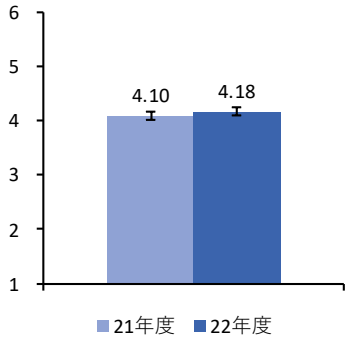
・適応（教員）



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22適応（教員） - 21適応（教員）	0.171	0.049	3.526	1849	.000	0.164

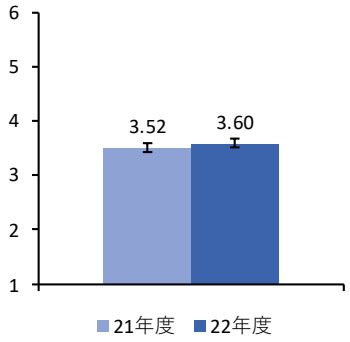
・全体的に見て学生生活は充実している



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22全体的に見て学生生活は充実している。 - 21全体的に見て学生生活は充実している。	0.082	0.054	1.507	1840	.132	0.070

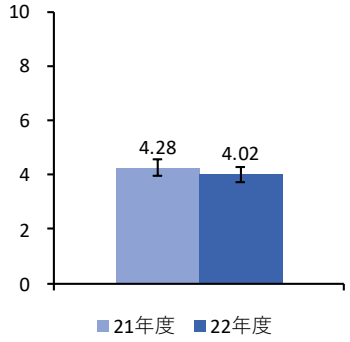
・もし大学を選びなおせたら、またこの大学にもう一度進学したい



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22もし大学を選びなおせたら、またこの大学にもう一度進学したい。 - 21もし大学を選びなおせたら、またこの大学にもう一度進学したい。	0.085	0.059	1.448	1840	.148	0.067

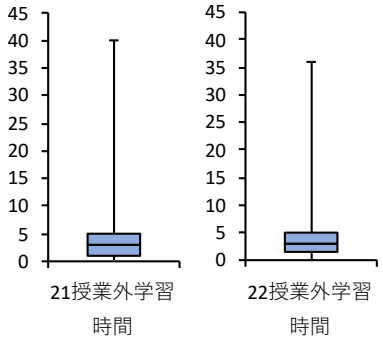
・授業外学習時間（１週間あたりの時間数を入力）



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22授業外学習時間 - 21授業外学習時間	-0.260	0.210	-1.235	1848	.217	-0.057

箱ひげ図

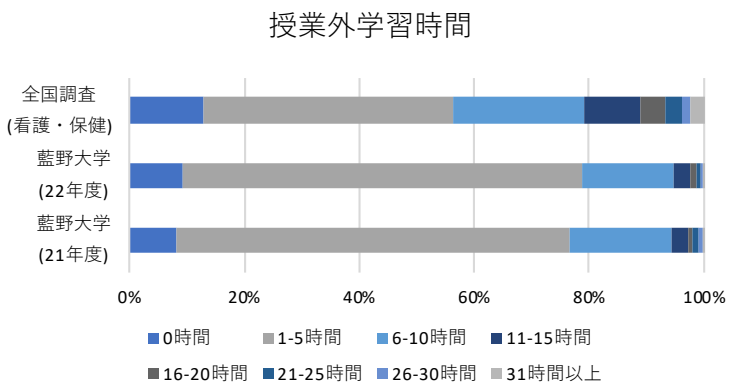


変数	最小値	Q1	中央値	Q3	最大値	四分領域
21授業外学習時間	0.000	1.000	3.000	5.000	40.000	2.000
22授業外学習時間	0.000	1.500	3.000	5.000	36.000	1.750

全国調査との割合比較

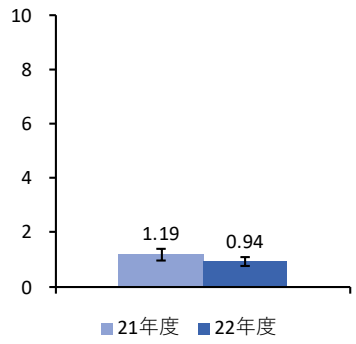
※全国調査は国立教育政策研究所(2018)「平成28年度『大学生の学習状況に関する調査』基礎集計表」を参照
(https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_digest_h29/kiso2.pdf)
なお、全国調査には無回答・不明の回答も含まれるため合計が100%にはならない。

※全国調査との比較のため、本調査の回答を上記調査と同じ時間幅に調整。



	藍野大学(21年度)	藍野大学(22年度)	全国調査(看護・保健)
0時間	8.3%	9.1%	12.7%
1-5時間	68.5%	69.5%	43.10%
6-10時間	17.7%	16.1%	22.70%
11-15時間	2.6%	2.8%	9.50%
16-20時間	1.0%	1.0%	4.30%
21-25時間	1.0%	0.8%	2.70%
26-30時間	0.8%	0.4%	1.70%
31時間以上	0.2%	0.2%	2.30%

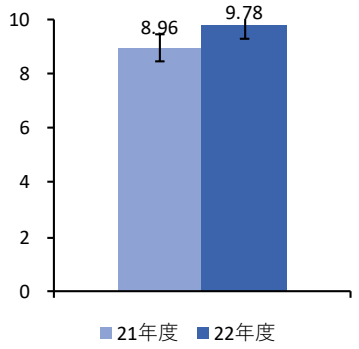
・授業外読書時間（１週間あたりの時間数を入力）



差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22授業外読書時間 - 21授業外読書時間	-0.252	0.138	-1.835	1848	.067	-0.085

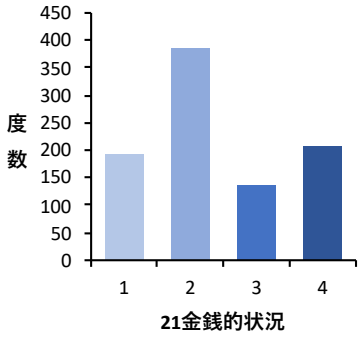
・アルバイト時間（１週間あたりの時間数を入力）



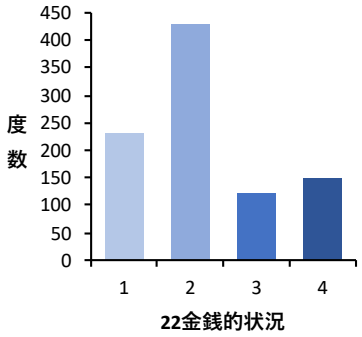
差の検定

水準の組	差	標準誤差	*t* 値	df	*p* 値	効果量*d*
22アルバイト時間 - 21アルバイト時間	0.819	0.355	2.307	1848	.021	0.107

・金銭的状況



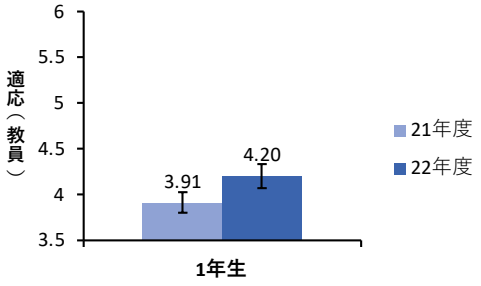
	度数	割合(%)
1:必要な生活費以上のお金を稼げている	192	20.8
2:必要な生活費を最低限稼げている	385	41.8
3:必要な生活費を稼げていない	136	14.8
4:アルバイト等はしていない	208	22.6
合計	921	100

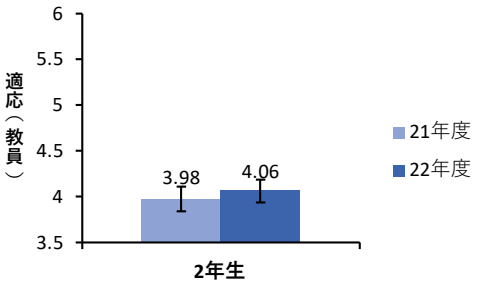


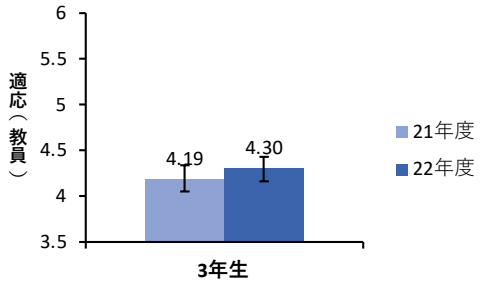
	度数	割合(%)
1:必要な生活費以上のお金を稼げている	230	24.8
2:必要な生活費を最低限稼げている	429	46.2
3:必要な生活費を稼げていない	122	13.1
4:アルバイト等はしていない	148	15.9
合計	929	100

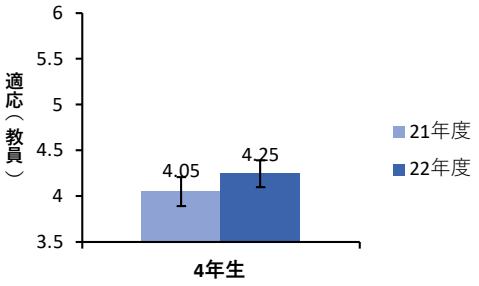
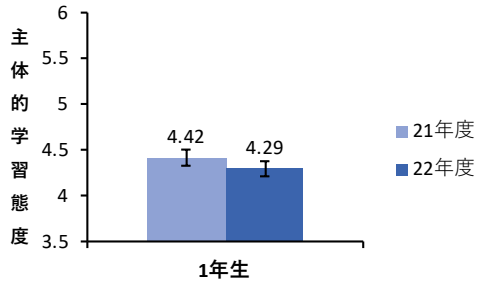
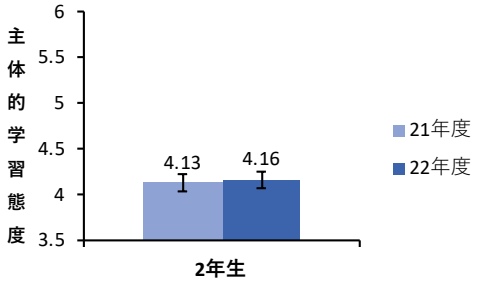
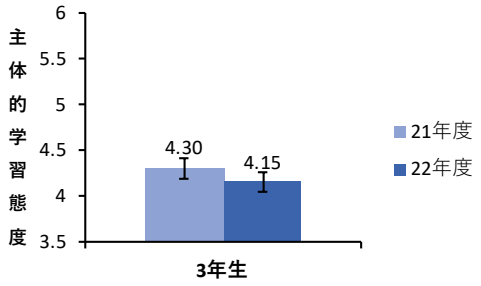
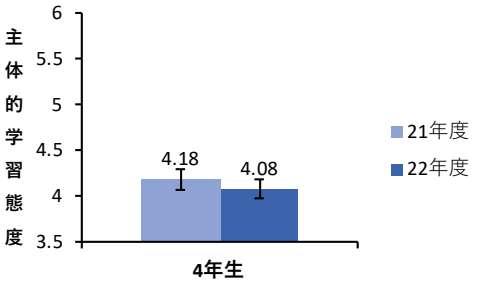
追加の分析結果（比較的変化のあった変数について学年ごとに再分析）※変化がわかりやすいように軸を調整

・適応（教員）









・主体的学習態度